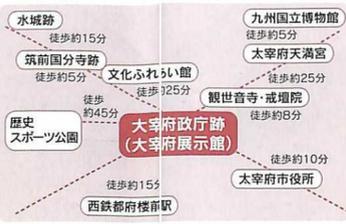


太宰府万葉歌碑めぐり



- 歌碑散策モデルコース**
- 1 国博～太宰府天満宮～大宰府政庁跡 (約3時間コース)
 - 2 大宰府政庁跡～水城跡 (約3時間コース)
 - 3 18～19 歴史スポーツ公園 (約2時間コース)
- まほろば号(吉村回り)と大佐野回りを利用



発行・問合せ 太宰府市
TEL 092-921-2121(観光経済課)
FAX 092-921-1601
http://www.city.dazaifu.lg.jp

編集 大宰府万葉会
題字 山内勇哲
2014.10作成

① ミミにありて筑紫や何處
白雪のたなびく山のふもとにあらはし
原文/此間在面 筑紫也何處
白雲乃 彌引山之 方西有良思
作者/大伴旅人
大意/この難波からはかに眺めやれば筑紫の国はたなびく山のふもとにあらはし

② わか花に梅の花散る
久方の天より雪の流れるかも
原文/相何能爾 宇來能波波知流
比佐多能 阿來欲里由吉能
那何久流加母
作者/大伴旅人
大意/わか花の庭に梅の花が散つて、久方から雪が流れてくるのであろうか

③ よつよとほしきふてうのほは
たゆるこなくまわたるし
原文/萬世爾 得之波岐得母
鳥梅能波流 多由流己奈余久
佐吉相多留吉
作者/筑前介佐氏
大意/永遠に年月が経つて行っても、梅の花は絶えることなく咲き続けることであろうか

④ 妹が見し梅の花は散りぬへし
わが泣く涙はまだ干さず
原文/伊毛何美斯 阿布知乃波那波
知利奴倍斯 相何那久那美多
伊麻院飛那久
作者/山上憶良
大意/妻が見た梅、せんだんのは花は、きつと散つてしまつたらう。涙をこぼして悲しみの涙がまだ消えないうちに

⑤ 春さればまづ咲く宿の梅の花
獨見つやける日暮さむ
原文/波流佐佐 麻豆佐久耶登能
鳥梅能波波 比等利美都美夜
波流比久臣佐武
作者/山上憶良
大意/春になると真先に咲くこの家の庭の梅の花を、ただひとりで見ながら春の長い日を暮らすことであろうか

⑥ しらぬひ筑紫の錦は身に付けて
いまだ若れど暖けく見ゆ
原文/白織 筑紫乃錦者 身着而
未者伎祿伴 暖所見
作者/沙弥彌智
大意/筑紫の錦は、まだ身に付けて着てはいないが、暖かそうに見える

⑦ 瓜食のげ子ども思はゆ
粟食のげまじし徳はゆ
いづより未たりしあそまふかに
もどなかりて安眠しなふぬ
原文/宇利波来婆 胡麻母意母保由
伊豆久欲利 胡多利斯波由
麻奈迦比利 母等奈可利提
波利伊斯佐良
作者/山上憶良
大意/瓜を食べると、子どものことが思われる。粟を食べると一層子どもはどこか来たものであるうか。眼前にむかむかちらいて安眠させてくれぬ

⑧ 大君の遠の朝廷とあり通ふ
鳥門と見れば神代し思ほゆ
原文/大王之 遠乃朝廷 饒通
嶋門乎見者 神代之所念
日本比武國本 同登會念
作者/大伴旅人
大意/大君の遠く離れた故郷として通い続ける海峡を見ると、神代の昔が思われる

⑨ やみみしわ、大君の食団は
優も此処も同じと思ふ
原文/八關知之 吾大王乃 御食團者
大君乃 同登會念
作者/大伴旅人
大意/大君のお治めになる国は、大和も筑紫も同じだと思ふ

⑩ あとによし穿梁の京師は
咲く花のまぶかごとく 今ふかりなり
原文/昔丹吉 車葉乃京師者
咲花乃 董如 今盛有
作者/小野老 董如 今盛有
大意/穿梁の京師は、咲く花が美しく重なるように、今がまぶか盛りにある

⑪ 世の中は空しきもど知る時し
いよますます悲しかりけり
原文/余能奈可波 牟奈之伎母乃等
志流等伎子 伊与余能須乃須
加奈之可利奈理
作者/大伴旅人
大意/世の中はむなしもどつくづく知る時、いよますます悲しい感を感じた

⑫ わか花に梅の花散る
初秋の花壇向ひに来鳴くも男鹿
原文/吾岳尔 樟壯鹿來鳴 先芽之
花壇向尔 來鳴壯鹿
作者/大伴旅人
大意/私の住む所に牡鹿が来て鳴いている。今年初めての秋の花が咲き牡鹿がやってきて妻を慰めていることよ

⑬ 正月に梅の花
かしく梅と招きつ果て終への
原文/武部紀多知 波流能吉多良良
可久麻智 鳥梅乎平岐都
多野之岐乎倍來
作者/大伴旅人
大意/正月になり春が来たので、このように梅を招いて、楽しい日を過ごそう

⑭ 凡そらばかみかむせむと
忍びと振らたき袖と忍びあるかも
原文/凡有者 左毛石毛持が乎
忍跡 振袖袖乎 忍而有香聞
作者/娘小兒
大意/あなたが平凡なお方なら私の思うようにしますに、恐れ多くてもいともはげしく振る袖をさらす振らずにいます
ますらと思われや
秋、水城のうたをみだすは
原文/大夫跡
念在吾哉
水城之上尔
泣持賦
作者/大伴旅人
大意/立派な男子だと思っていた自分も水城の辺りに立てて涙を拭うことであろうか

⑮ 秋の野に咲きたる花を
指折りかき数ふれば七種の花
原文/秋野乎 咲有花乎
指折 可伎數者 七種花
作者/山上憶良
大意/秋の野に、咲いている花を指を折って数えみると、七種類の花がある

⑯ 銀も金も玉も何せむに
まされる宝子にかやも
原文/銀母 金母玉母 奈尔世武尔
麻佐利留多可良 古尔斯迦米夜母
作者/山上憶良
大意/銀も金も珠玉も子どもの愛に比べれば何にもなるうか。どんな秀れた宝も子どもには及ばない

⑰ 妹が見し梅の花は散りぬへし
吾が泣く涙はまだ干さず
原文/伊毛何美斯 阿布知乃波那波
知利奴倍斯 相何那久那美多
伊麻院飛那久
作者/山上憶良
大意/妻が見た梅、せんだんのは花は、きつと散つてしまつたらう。涙をこぼして悲しみの涙がまだ消えないうちに

⑱ 春さればまづ咲く宿の梅の花
獨見つやける日暮さむ
原文/波流佐佐 麻豆佐久耶登能
鳥梅能波波 比等利美都美夜
波流比久臣佐武
作者/山上憶良
大意/春になると真先に咲くこの家の庭の梅の花を、ただひとりで見ながら春の長い日を暮らすことであろうか

⑳ 瓜食のげ子ども思はゆ
粟食のげまじし徳はゆ
いづより未たりしあそまふかに
もどなかりて安眠しなふぬ
原文/宇利波来婆 胡麻母意母保由
伊豆久欲利 胡多利斯波由
麻奈迦比利 母等奈可利提
波利伊斯佐良
作者/山上憶良
大意/瓜を食べると、子どものことが思われる。粟を食べると一層子どもはどこか来たものであるうか。眼前にむかむかちらいて安眠させてくれぬ

㉑ 湯原に鳴く鳥は
吾が泣く涙はまだ干さず
原文/湯原尔 鳴鹿多頭者 如吾
妹尔戀哉 時不定鳴
作者/大伴旅人
大意/湯原の原に鳴く鳥の音も、わたしのよきに妻を恋しく思っているのか時を定めず鳴いている

㉒ 春の野に露立りたり
降る雪と人の見ざる
原文/波流能勢尔 紀理多知
和多利 布流由波得
比得能美流麻提
鳥梅能波波知流
作者/鳥目田氏良上
大意/春の野に露が立ち降り、降る雪と人の見ざる

㉓ 妹が見し梅の花は散りぬへし
わが泣く涙はまだ干さず
原文/伊毛何美斯 阿布知乃波那波
知利奴倍斯 相何那久那美多
伊麻院飛那久
作者/山上憶良
大意/妻が見た梅、せんだんのは花は、きつと散つてしまつたらう。涙をこぼして悲しみの涙がまだ消えないうちに

㉔ 妹が見し梅の花は散りぬへし
わが泣く涙はまだ干さず
原文/伊毛何美斯 阿布知乃波那波
知利奴倍斯 相何那久那美多
伊麻院飛那久
作者/山上憶良
大意/妻が見た梅、せんだんのは花は、きつと散つてしまつたらう。涙をこぼして悲しみの涙がまだ消えないうちに

㉕ 妹が見し梅の花は散りぬへし
わが泣く涙はまだ干さず
原文/伊毛何美斯 阿布知乃波那波
知利奴倍斯 相何那久那美多
伊麻院飛那久
作者/山上憶良
大意/妻が見た梅、せんだんのは花は、きつと散つてしまつたらう。涙をこぼして悲しみの涙がまだ消えないうちに